

3.1.11 ヒューマンコミュニケーション技術の研究開発（DP）

中期計画期間全体	目 標
	<p>ネットワーク上で、人（ユーザ）へのケアに力点を置いたインタフェース・コンテンツ技術の研究開発を軸に、情報通信技術のユニバーサルデザイン化を目指して情報弱者の支援・多様なユーザによるITコンテンツの利用・享受に直結するコミュニケーションシステムの実現を進める。中間時には、各分野でのプロトタイプシステムを完成し、実証する。</p>
	<p>目標を達成するための内容と方法</p> <p>高齢者・障害者への情報環境支援の有用性、新概念の社会参加インタフェースの創出、ネットワーク環境を駆使したマルチメディアコンテンツの適応的特性による自在な利用、ネットワーク上の統合的テキストコンテンツ活用システムの提示と実言語による実証など、共通してオリジナリティのある要素技術を軸とした、企業での開発基盤となり得る技術・システムの開発と提示を行う。これをベースに外部連携を進めて実システムへの実装と研究の評価を行う。</p>
特 徴	
	<p>ユビキタス環境に基づいたユーザインタフェース技術の研究と快適なメディア環境空間の実現技術を開発することを基礎に、実生活に実現するIT技術を示すようなユーザ利用システムの実証的構築を進める。このため、けいはんなオープンラボとその上での対外連携研究体制を当センターが中心となって構築することにより成果発出・社会貢献を目指す。</p>

今年度の計画	<p>今年度の計画</p> <p>中味のある産学官連携の軸として、CRLけいはんなからの中核技術を入れ込むことでオープンラボの構築を主体的に行う。これと反作用的に、オープンラボ構築をてことした民間からの参加の拡大とこれによるプロジェクト構築の大幅見直しを進める。</p>
--------	---

今年度の成果	<p>今年度の成果</p> <p>オープンラボの来年度開始を前提に、関係連及びその他公共機関、大学等の協力を得て相当規模の「けいはんなオープンラボ協議会」を発足させた。この協議会により、産業界や学界とCRLとの相互協力によるプロジェクト構築・実施が可能となる体制を用意しつつある。所内においては各研究課題について要素的な技術の研究がそれぞれ進展した。これをベースに京都大学、奈良先端科学技術大学院大学など外部人材を活用したプロジェクトの再構築を進め、IT技術のユニバーサル化を目指して、現実世界のヒューマンインタフェースとその活用、情報仮想世界の活用による利用支援技術、ネットワーク上のグローバルな言語情報活用支援技術などと、これらをベースとした生活支援システムの実証実現プロジェクトへとまとめた。これはオープンラボへ提示した上、民間等のニーズにも考慮しながら進展させる予定である。</p>
--------	---

今年度の計画及び報告

